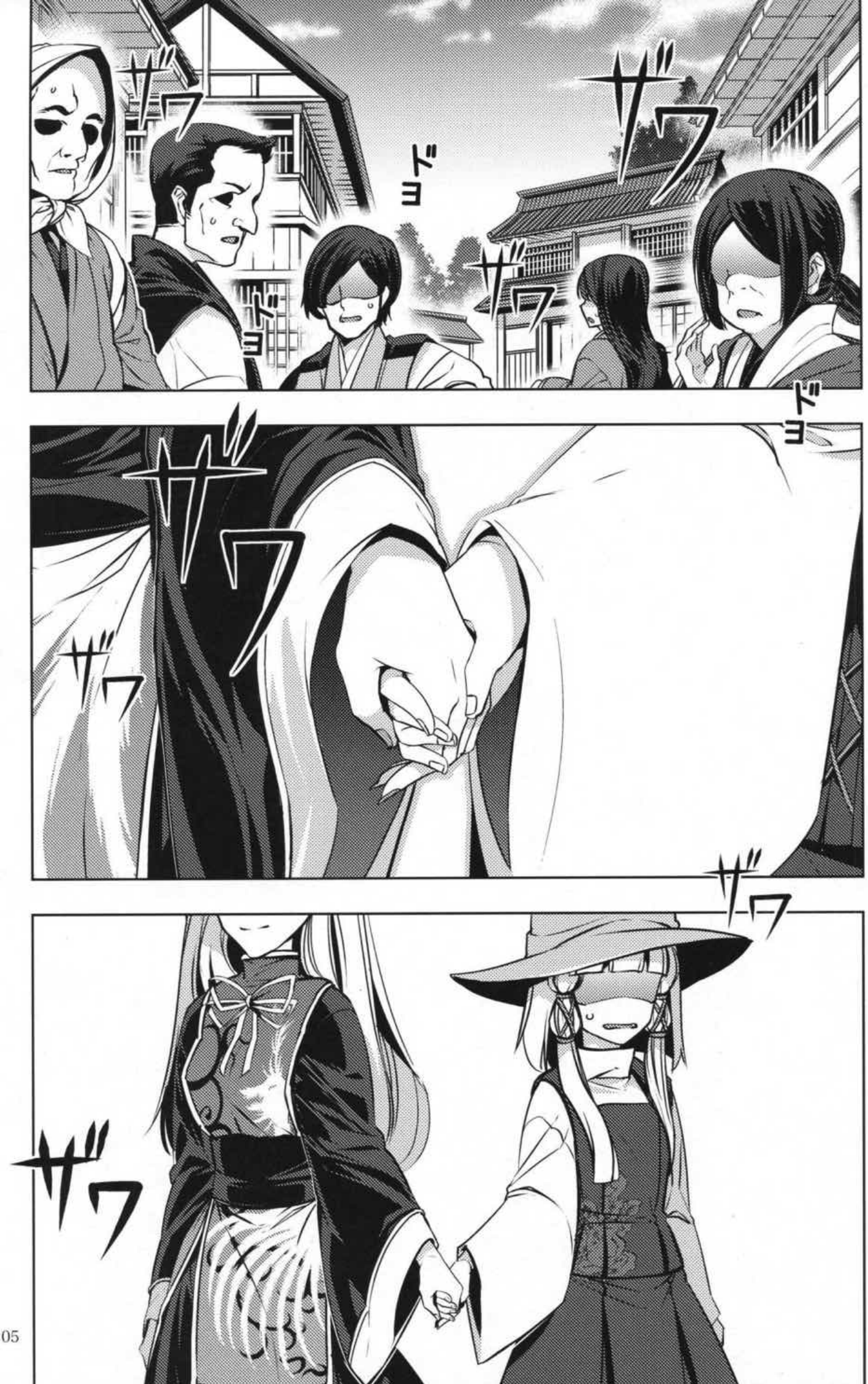
TOUHOU PROJECT FAN BOOK
PRESENTED BY Yakumi-Sarai
イカレガミ

この漫画は
東方Projectの
二次創作作品です

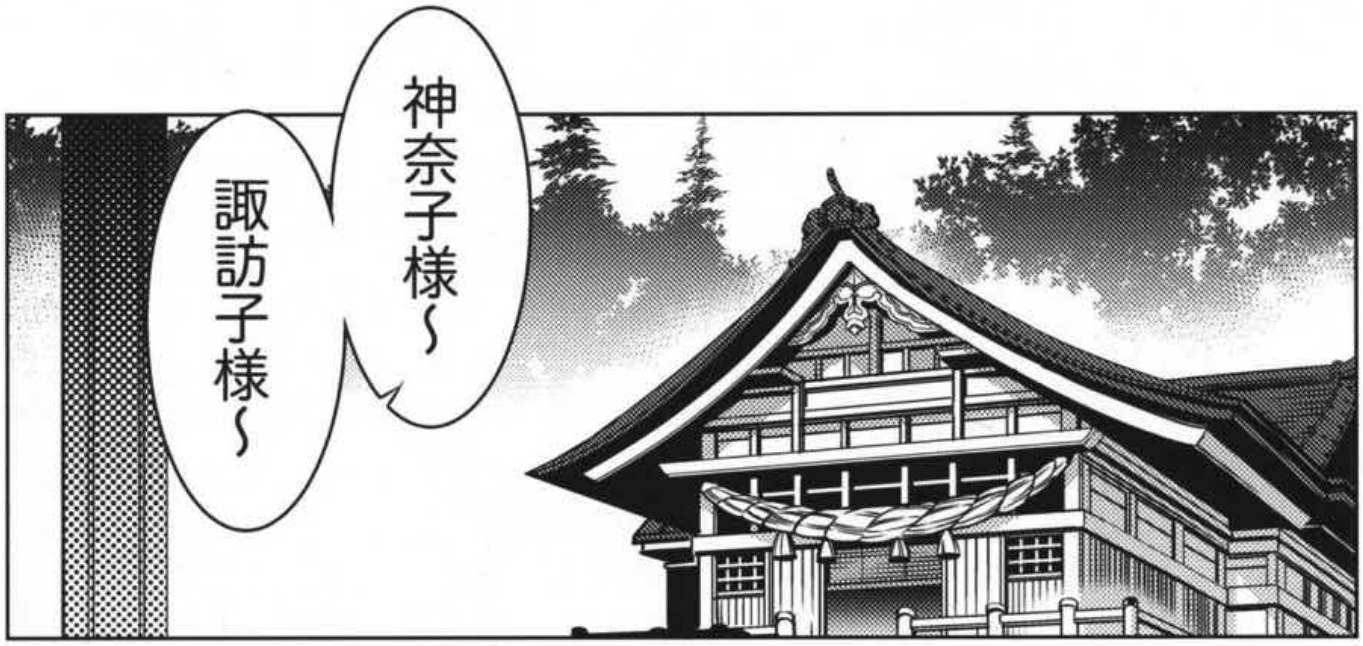

ザワ
ザワ
ドヨ
ザワ
ドヨ
ドヨ
ザワ
ザワ
ザワ
ザワ

ザワ
ドヨ
ザワ
ザワ
ザワ
ドヨ
ドヨ
ザワ
ザワ

TOUHOU PROJECT FAN BOOK

怒レル神

PRESENTED BY
Yakumi-Sarai



山をうろついていたので連れてきちゃいました

うおおお

まあまあ
そう言わず！

ガシッ

ほら
純狐さん！

ドーン

蛙ですよ！
蛙の神様！

ワクワク

嫦娥と一緒
ですよ～！

ちょっ！
おま…！

これが
やりたかった
だけだな!?

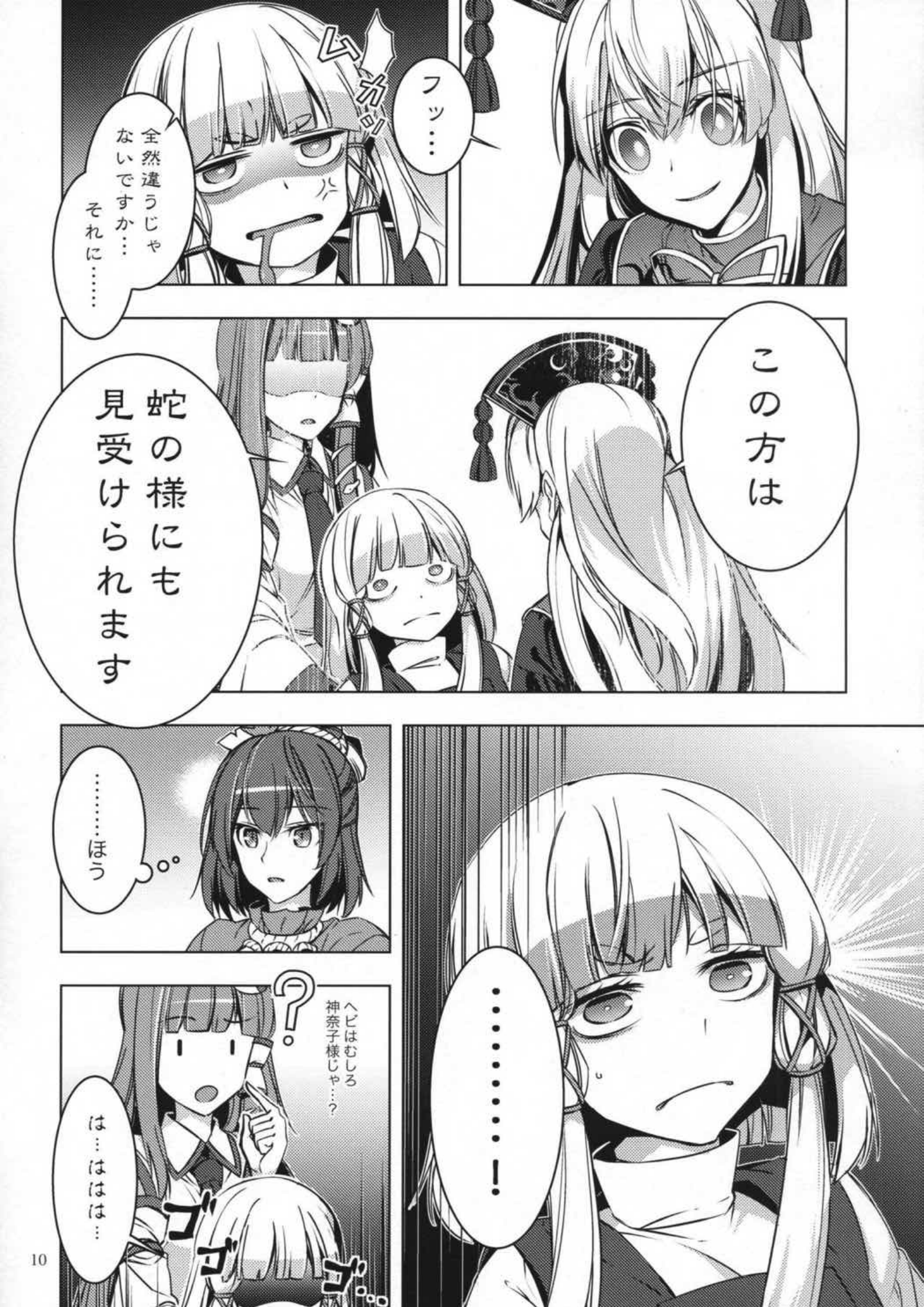
ダラダラ

嫦娥…？

いや…違…

ズイッ

ビクッ


フッ…
ムカッ
全然違うじゃないですか…それに……
この方は
蛇の様にも見受けられます
……ほう
……！
ヘビはむしろ神奈子様じゃ…？
は…ははは…
ゴゴゴ…

初対面にしちゃあズケズケと踏み込んで来るじゃないか！

スクッ

気に入ったよ！

歓迎してあげる！

表情が全く歓迎してません諏訪子様

これぞうちの神社秘伝の神饌！

ホワ

神自らがこさえた筒粥だ！

た～んと召し上がれ！

……神奈子様…あれって……

ああ……あいつが無駄に持ってる筒粥レパートリーの中でもスペシャルなやつ

ゲッ ゲッ ゲッ

食用に適さない野生イネを青臭い青竹に詰めて鉄臭い源泉水で煮込んだ…

エグくて渋くて不味くて生臭くて消化に悪い嫌がらせのための逸品だ！

さすが諏訪子様陰湿です！

ええ　おいしいわ

あ～～～！

ブーン

ブーン

ムカつくイラつく腹立つ！なんなんだアイツは！

ジタバタ

というかなんで普通に食べてんだよ！味覚死んでるんじゃないか!?

少しは落ち着け

いったいどうした？妙に奴を敵視しているが……

純狐を勝手に連れてきた罰におかゆ処理中

本当にマズイ…

う～いや……

なんか気に入らなくて……

しかし純狐さん　また山に戻りましたけど一体何を……

というかこの郷に居て大丈夫なんでしょうか

ああ……

まあ監視の目は有るようだしな

まったく この前のは何だったんだ

チチチチ

それにしても やっぱり山が妙だ…

妙に……

和む……

元々外に比べて山が濃い郷だけど……いやそれにしても……

それに山の神霊達も静かというか……姿を見せないし……

皆だらけきっているのかな……

ガサッ

ムク…
ゲ……！
ナッ
いい気分だったのに……
というかまだ山をうろついていたのか
……
ドヨ
ドヨ
ザワ
ザワ
ヒソ
ザワ

付いて来てしまった……

ヒョコ

ズズ…

随分とまあご執心の様ね

っ……！八雲の！急に驚かさないでよ！

私の気配に気付かないなんて……本当にお熱の様ね

でも丁度良いわアレを一人で放っておくのも少し心配だし面倒を見てあげて頂戴な

フラ

フラ

ハア!?

ドン

彼女が気になるのでしょう？それに……

アチラも貴方に興味がある様よ

ズザー

あら……
またお会いしましたね
……
ここの里に興味がありまして…少し案内していただけませんか？
なんで私が……
というか離せ！
ね？

あーー！もう！わかったよ！

ザワ

ザワ

ドヨ

ザワ

ドヨ

ドヨ

？

うえ!?
な……っ!?
ギョ
あら……
貴方も里に来ていたのね
ビク
どんより
ズズイ…
でも今日はこの方と散策中でして
御機嫌よう……
なんなんだあの組み合わせ……
それに里にどんな興味が…
どう思う？れいせ…
……
ニヤギ
絡まれなくてホッとするのか嫉妬するのかどっちかにしなよ

ああ……つかれる…
ヨロ…
うん…？
ちょっと腹ごしらえでもしようか
ワワ
キョン
ええ
おいしいわ
あー……美味いかい？
ムグムグ

あったまきた！

ダッ

ダッ

あの粥と反応が一緒じゃないか！

ズダ

ズダ

こうなったら美味くて目玉ひん剥く様な物食べさせてやるよ！

ブス

パチッ

ブス

……で

なんで私の所に来るのよ

神格はアレだけどお前の焼く芋だけは本当に美味いからさ

コイツにも食べさせてやってよ

パチパチ

はあ……神格云々はともかく美味しいって言われるのは嬉しいけどさ……

ホワ

はい　どうぞ

ああ　流石の香り…

あっち！

ジュッ

ヒリヒリ

いやー　すぐにかぶり付くわけにはいかないか…

あんたも気をつけ……

モク

モク

ええ

おいしいわ

……こいつ

……まさか本当に…

……

それにしても食べる時まで手を握っちゃってまあ

ギュ

髪の色も相まって仲の良い姉妹か……

私も金髪だけど

いっそ親子の様にも見えちゃうわね

ズ

ブ。。
つ痛！
ズクッ
!!
――
あれ……？
今日はありがとう
スク。。。

では　また……

夢を見た

ズガン

昔々のなかくにの女の夢

ズガン

我が子を殺され

怒りにその身を焼いた女の夢

ズガン

その怒りを

未だ燻らせている女の夢

スウ…

この手に残る熱は…まるで……

ズク…

……ハァ

ペタ

そうだ
今の山の感覚には
憶えがあった

遥か太古の
原初の森

人も妖も寄せず
神と森が不可分
であった頃の

純粋な杜(もり)

太古の神
私にしか知覚できない
であろう神域

間違いない
これは奴の仕業だ

純化
奴の力に寄るものだ

お待ちしていました

土着神の頂点
祟神の総領

どうです？
この山の神霊を純化し
大地に混ぜ合わせ
作った杜(もり)は

ここなら貴方は
来てくれると思った

ここなら
貴方以外に
邪魔される事は
ないと思った

この手を通じて
私は貴方の
神性に触れた

ならば　貴方も私の
深層に触れたはずです

グ…

怒りがあった

悲しみを
塗りつぶすほどの
怒りがあった

全てを
塗り潰すほどの
怒りがあった

だが
怒りは褪せる
怒りは薄れる
怒りは散る

流れ落ち　手に残った
あの子の血の熱さ
その記憶とともに

怒りがあった

始まりは怒りだった

霊長の怒りが　恐れが
畏れとなり祟りを成す

それが私だった

しかし
いつしか
国を奪われ
我が子ら
人々に忘れられ
時代(せかい)に取り残された

そのように世は流れた
私はそれを受け入れた

無念と諦観と
少しの祝福とともに

人は過去の痛みを忘れる
だからこそ人は生きていける
神霊となり怒りを純化させようとも
その性からは逃れられない
怒りしかなかった私は
怒りと共に褪せようとしている
だが貴方は違う筈だ
月でまみえた現人神に残る貴方の香りから
この地に降り土着の神霊から得た話から
繋いだ手とそこから流れ込む神性から
私は貴方の事を知った

貴方は違う筈だ
私とも…
貴方の傍らにいるあの神とも違う
人霊を基とせぬ純粋な神
定形を持たぬ存在
祟り(怒り)の顕現
なのに貴方は人々の前で
人のように振舞っていた

なぜ　その怒りを振るわない？

なぜ　貴方はその形をしている？

なぜ　人の様に物を食(は)み人の様に悲喜を謳い人の様に怒りを鎮めている？

その形こそが枷なのでしょう

私の力でその殻を廃却しましょう

さあその祟りを…

私の焦がれた純化された怒りを現せ！

まだあの神霊は見つからないの？

ええ…それに洩矢様も……

千里眼この目に濃い霞がかかった様な感覚で……

ドドド

あれは……！

何ですか
あれは!?

嵐の様にも
溢れかえる
濁流の様にも

……

禍々しい
大蛇の様にも
見えます…！

ブオオオオ

これがそうか
これが私の焦がれたモノか！
こんな！こんな……！

そうだ 私を喰らうがいい
そして私も貴方を喰らおう
ズッ
ブ。。

ドドド

結界が！

あれは……！

早苗を周辺の護りに向かわせている！

お前達も天狗の里へ知らせに行け！

……

……諏訪子……！

……静かね…そして…なんて安らかな……
これが全てを塗りつぶす純化された怒り……
ちがう

怒れる神霊よ
貴様は今正に
我に溶けようとしている

我もまた
名を持たぬ現象へと
帰結しようとしている

祟りは怒り
ではない

だが
祟りは怒り
でもある

祟りとは
世に存在する
数多の惨禍に

人が怒り 嘆き 畏れ
名を与え識と成し
形作ったモノだ

その名を外し醇に帰そうとするならば

そこには貴様の焦がれた怒りも貴様が零した悲しみもない

これで良いのだな

私は怒の粋を萃て怒りを越えた怒りを手に入れたかった

月に降りかかる厄災そのものに成りたかった

ああ……だけど

それでも私は……

ピシ
くそ…っ！
この力はもはや
諏訪子のそれではない……
このままでは……！
ゴ
ズ
ズ
ズ
ズ

成る程

柱を並べ境とするか…判る話だわ

ならば私の国のお家芸でもあれば！

この力…そしてその珍妙な姿…まさか貴様は……！

貴方には言われたくないわね！

ともかく　私もまだ純狐を失いたくないの！

さあやるわよ！

一気に抑え込む！

……私もさ
羨ましかったんだと思うよ

私にも怒りはあった
怒りが力でもあった
でも それだけではなかった

このカタチを得て
それ以外の色々なモノも得て
濁っていった

そんな大層なものではありませんよ

結局最後の最期に

私は私が失った悲しみモノを…

ソレを失ってしまった悔いを

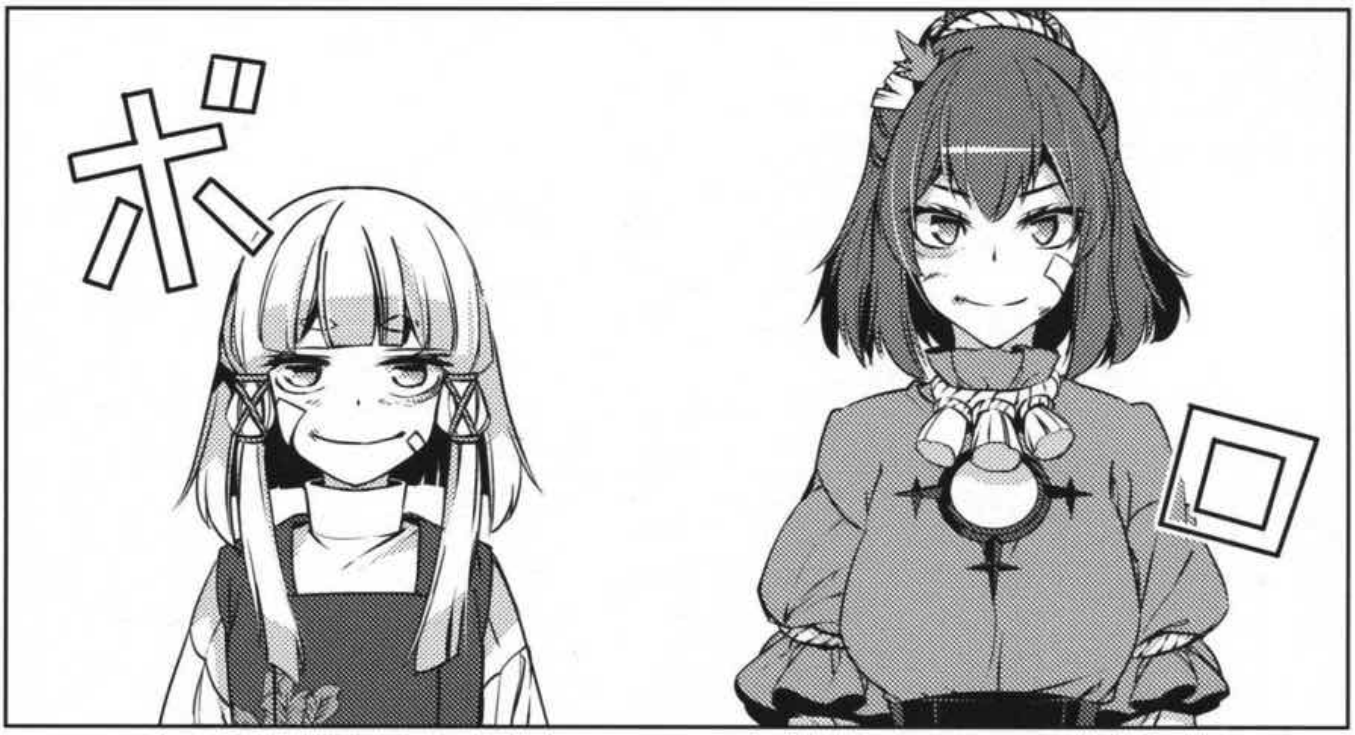
手放す事が出来なかったのだから

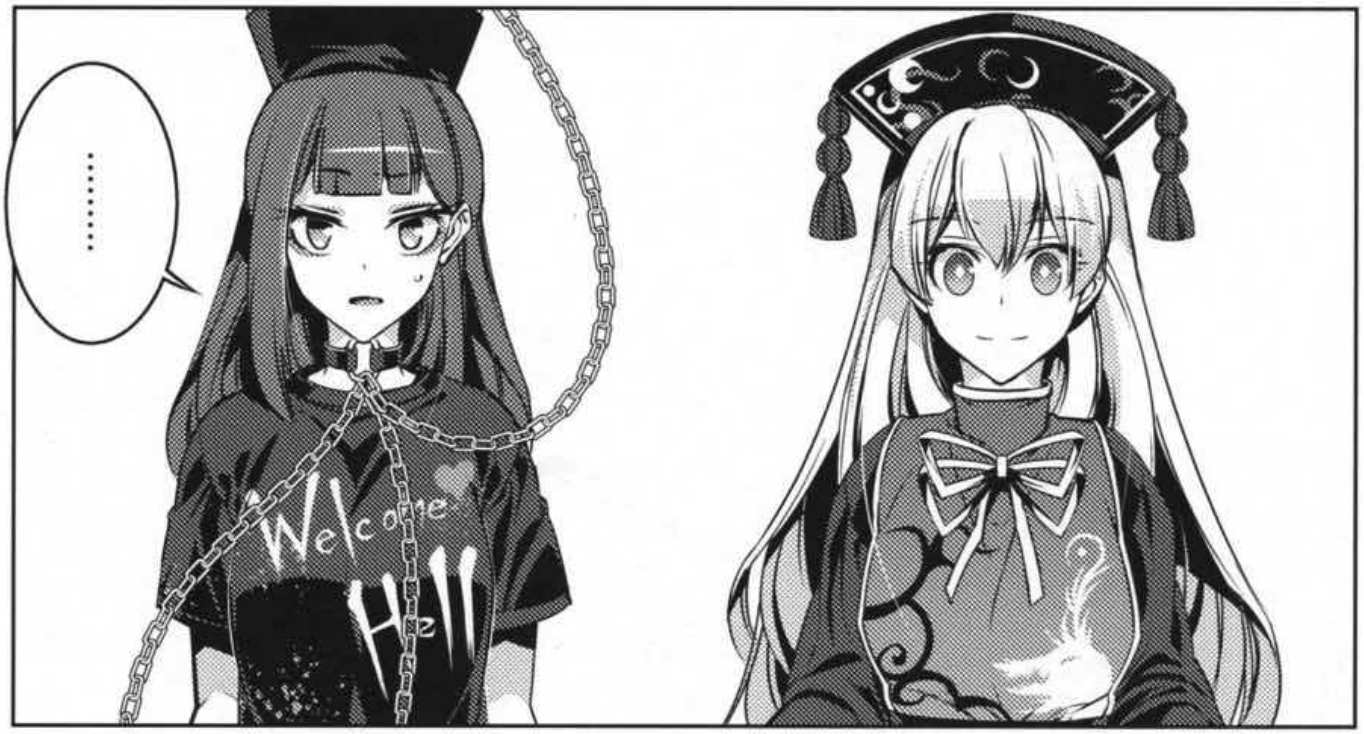
……それで良いんじゃない

濁りも何も無くしちゃあ

あのお月さんみたいになっちゃうよ

ふふふ……
そうですね
我らにとっては濁りも穢れも
おーい
じゅんこ〜
力なのだから


ボ


……
Welcome
Hell

……この前の騒ぎでは
そんな怪我して
なかったわよね？

フン……
こいつが急にさ

ケロ
ケロ
ケロ

ちょっと昔を
思い出して
怒りの鉄拳をね

まったく……
助けてやったのに
この仕打ちだよ…

？

まあ喧嘩するほど
って事かしら

それはさておき
今回はちゃあんと
作った神の筒粥だ

たーんと
食べておくれ！

うちのとこの粥と違って
随分とシンプルなのね…

ワビサビって
やつかしら？

モグ

モグ

これはなんとも…味の方もシンプルな感じで……

ええ……

泥臭くて青臭くておいしくないわね

よくぞ言ったコノヤロー！

終

話が拗れそうだから縛り付けられてる系現人神

あとがき

25冊目になります。ゾウノセです。

ヒキガエルの姿をした女神である嫦娥と諏訪子を絡めたネタはよくありますが
そこからもう一歩踏み込めないか？と考え始めた結果できたお話です。
いろいろ考えてるうちに嫦娥云々よりもむしろ純狐自体に
諏訪子との共通性があるように思えてきてこの様な形となりました。

それとは別に純狐は原作だと復讐の権化の様な描写もある反面
意外と怒りが収まってる様な部分も有ることが気になり
その辺りの妄想も合わせて混ぜ込んだ感じです。

それと外來韋編で神主が純化の力の問答の際に言及した
「名前が付いてしまったら、神としての性質は無くなる」
といったファクターからも色々妄想してます。
妄想ばっかりだな！二次創作楽しいな！！

純狐に限った話ではありませんが、
東方にはいくつかの元ネタを一つに組み合わせた様な設定のキャラが多く
その取捨選択が二次創作の醍醐味の一つだと思います。
純狐の「子供を殺された」という設定も色々と妄想の幅があって良いですよね。
今回の話では一応決着していますが、まだまだ色々と闇をほじくれそうなので
また何かお話を描けったら良いなーと思っています。

ちなみに今回は前々回のヘカさん本の反動もあってギャグ多めの
つもりだったんですが、ページの都合でだいぶ削る事になりました。
その結果シチュエーションの名残だけ残ってしまい
シリアスなのに微妙にシュールなシーンも多いのですが
それが逆に純狐の異物感に合う様な気がして気に入ってたりします。

しかし読み返してみるとケロ様なんもしてないな！
助けられ系ヒロインだからね！仕方ないね！！

次は受かっていたら夏コミで総集編第4巻の予定です。
収録作品の関係上描き下ろしでまたケロ様が出るぜ！やったぜ！
今までの3冊の描き下ろしがどれも大規模でシリアスな内容だったので
次回はちょっとノリを変えたいと思っています。思うだけなら誰でもできます。

それではまたお会いできましたら幸いです！

東方Project Fanbook
奥付 怒レ神

2017年05月07日　第十四回 博麗神社例大祭　発行
原作　上海アリス幻樂団　様
印刷　栄光印刷　様

サークル　薬味さらい
著者　ゾウノセ

http://zounose.jugem.jp/

pixivID　2622803
mail　zounose@gmail.com
twitter　@zounose

TOUHOU PROJECT FAN BOOK

怒レ神

PRESENTED BY

Yakumi-Sarai

2017.05.07